エリアガード

取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。

●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

注意

- 正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 前もって設置場所の確認を行ってください。給湯機、暖房器などの排気熱が製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化のおそれがあります。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

ポイント

- 塀やフェンスの乗り越え検知用に施工する場合、80cm以上離れた位置に施工してください。
- 草や木などの風によって動く物の近くに設置しないでください。

＜施工上のご注意＞

注意

- ボルト, ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト, ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

＜基礎工事について＞

⚠注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決められていますが、現場によって(堅牢な地盤、軟弱な地盤など)基礎部のコンクリートの量(体積)を十分配慮してください。
- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結材など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

＜電気配線工事について＞

⚠注意

- 電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 専用のトランスが必要です。AC100Vを接続しないでください。
- 機器に接続する電圧、極性を間違えないでください。故障に原因になります。
- 電源配線・切替スイッチ配線にはVCTF1.25から0.75mm²のより線またはϕ1.0単線2芯を現場で別途手配してください。
- 灯具制御ユニットと受光器の接続には、線径0.65mm4芯ケーブル(JCS第396号A相当やインターホンケーブル等)を現場で別途手配してください。
- 家側からの地中内配線用の配管にはPF管（松下電工製DM316等の呼び16以下）を使用してください。
- 配管内に水が侵入しないように、パテなどでふさいでください。
- PF管は現場で別途手配してください。

■梱包明細表

1 取付柱セット

名　　称	略　図	員　数
センサ取付ポール		1
化粧側板（小）		2
化粧側板（大）		2
キャップ		1
化粧側板カバー		4
接着剤		1
押えスポンジ		2
アンカー棒		1
1-①ϕ4×40ナベタッピンネジ3種		2
1-②ϕ4×35ナベタッピンネジ1種		2
1-③ϕ4×12ナベタッピンネジ3種		4
1-④M4×12サラ小ネジ(D=6)		2
取付説明書	―	1
取扱説明書	―	1

2 灯具制御ユニット

名　　称	略　図	員　数
灯具制御ユニット本体		1

3 赤外線センサユニット

名　　称	略　図	員　数
投光器		1
受光器		1
配線スポンジ		2
3-①ϕ4×20木ネジ ※		2
施工説明書	―	1

※本施工では使用しません。

F212_200503A

4 切替スイッチ

名　　称	略　図	員　数
1コ用スイッチボックス 防滴プレート用		1
1コ用防滴プレート		1
棒端子		2
スイッチ		1

5 ワイヤレス送信機　オプション

名　　称	略　図	員　数
ワイヤレス送信機本体		1
マグネット ※		1
ストッパ ※		1
固定用両面テープ ※		3
外部入力コネクタケーブル		1
防水シール		1
リチウム電池		1
5-①φ3×10サラタッピンネジ1種 ※		2
5-②φ3×10ナベタッピンネジ1種 ※		2
5-③φ4×10ナベタッピンネジ1種 ※		2
取扱説明書	―	1

※本施工では使用しません。

1.基本寸法図と各部名称

F212_200503A

2.基本工事と配線工事

（1）配線工事

基本接続図

❶ センサ取付ポールに取付いている化粧側板を外してください。
❷ 基礎孔を掘り、栗石を敷いてください。
❸ 受光器側のポールには電源および切替スイッチ用の配線配管を、投光器側のポールには電源の配線配管をしてください。
❹ トランス電源ユニットに配線を接続してください。

ポイント

- 60Wのトランス電源ユニットを使用する場合、投光器・受光器とも同じ出力端子に接続してください。
- トランス電源ユニットについては、トランス電源ユニットの取扱説明書を参照してください。
- トランス電源の出力は、「OFF」にしてください。配線終了後に「連続ON」に設定してください。

(2) 化粧側板の取付け

図2-1　投光器や受光器をつける面の孔あけおよび切断位置

図2-2　投光器も受光器もつけない面の孔あけ位置

ポイント

- 投光器や受光器をつける場合とつけない場合で、化粧側板（大）の使用する方向が異なります。
- 切断時には形材を潰さないように切断してください。
- 切断長は現場にあわせて調整してください。

❶ 投光器または受光器をつける面に入れる化粧側板（大）は、図2-1のようにR加工の無い面から841mmのセンターにφ5の孔をあけてください。そのあと、長さ284mmの位置で切断してください。

❷ 投光器も受光器もつけない面に入れる化粧側板（大）は、図2-2のようにR加工の無い面から445mmのセンターにφ5の孔をあけてください。

❸ 投光器または受光器をつける面の化粧側板（小）および（大）に、化粧側板カバーをR形状に合せながら取付けてください。

ポイント

- 化粧側板カバーの端部と化粧側板の溝部分を合わせてください。
- 化粧側板カバーは付属の接着剤で固定してください。

❹ センサ取付け面に入れる化粧側板（大）はRがついている部分を上に、ポール上部からセンサ取付ポールにスライドさせて挿入し、1-②で固定してください。

ポイント

- ネジの締めすぎに注意してください。

❺ 1-①をセンサ取付ポールにつけてください。

（3）基礎工事

表1-1　ずれ幅許容範囲

設置間隔	A	5m	10m	15m	20m	25m	30m
ずれ幅許容高さ	B	150mm	200mm	250mm	250mm	250mm	250mm

図2-3　投光器の場合

図2-4受光器の場合

ポイント

- 赤外線センサの光軸のセンターを合うように施工してください。赤外線センサユニットの光軸のずれ幅は、表1-1の範囲が許容範囲となっています。

❶ 投光器側の配線保護用PF管を、図2-3のようにポール中心に沿うように立ち上げてください。

❷ 受光器側の配線保護用PF管を、図2-4のようにポールに沿うように立ち上げてください。

❸ アンカー棒を差込みセンサ取付ポールを垂直に立て、モルタルで埋めてください。

ポイント

- アンカー棒は必ず取付けてください。
- センサ取付ポールには方向があります。光軸を合わせられるようにしてください。
- センサ取付ポールの埋込み位置は必ずGLラインにくるようにしてください。
- モルタルが固まるまでカイモノをして、センサ取付ポールが動かないようにしてください。
- モルタルが固まるまでキャップを仮止めしてください。キャップを仮止めしないとセンサ取付ポール内に雨水等が入るおそれがあります。

3.赤外線センサユニットの組付け

3-1 投光器の組付け

図3-1 配線接続図

図3-2

図3-3

ポイント

- 電源のプラス・マイナスは間違えないで結線してください。

❶ カバーロックビスを緩めてカバーを外してください。

❷ 立ち上げてある電源配線を図3-1のように配線をして、端子台の横のネジを締めて接続してください。

ポイント

- 端子台のネジは精密ドライバーなどの先の小さいものを使用してください。

❸ 配線の孔を、赤外線センサユニットに付属している配線スポンジを使用して塞いでください。

ポイント

- 配線スポンジの取付けは赤外線センサユニットの施工説明書を参照してください。

❹ 投光器をセンサ取付けポールに1-③を使用して図3-2のように取付けてください。

ポイント

- 光学ユニットを左右どちらかに90°回すと取付け部分が出てきます。
- 同じ柱に投光器を2個取付ける場合は、立ち上げてある配線をセンサ取付けポールの長孔にはめ込み、投光器の裏を通すようにしてください。電源配線は図3-3のように配線を渡して接続してください。

❺ 押えスポンジを化粧側板（小）がくる面に、上から20mm程度あけて貼り付けてください。

❻ 投光器取付け面の化粧側板（小）を挿入してください。

❼ キャップを1-④を使用して取付けてください。

3-2 受光器の組付け

図3-4 配線接続図

ポイント

- 電源のプラス・マイナスは間違えないで結線してください。

❶ 受光器のカバーロックビスを緩めてカバーを外してください。
❷ 灯具制御ユニットへ行く配線を図3-4のよに接続してください。

ポイント

- 端子台のネジは精密ドライバーなどの先の小さいものを使用してください。

❸ 配線の孔を、赤外線センサユニットに付属している配線スポンジを使用して塞いでください。

ポイント

- 配線スポンジの取付けは赤外線センサユニットの施工説明書を参照してください。

❹ 受光器をセンサ取付ポールに1-③を使用して取付けてください。そのとき接続した配線は図3-5のようにしてください。

ポイント

- 光学ユニットを左右どちらかに90°回しますと取付け部分が出てきます。
- 立ち上げてある電源配線および切替スイッチ配線は灯具制御ユニットに接続する配線です。受光器に直接接続しないでください。
- 立上げてある電源配線および切替スイッチ配線は長孔の上を通して受光器で挟まないようにしてください。
- 同じ柱に受光器を2個取付ける場合は、1個目と同じ方法で配線をしてください。
- 投光器が取付く場合、信号線は使用しないので2芯の配線を使用してください。

図3-5

❺ 押えスポンジを化粧側板（小）がくる面に、上から20mm程度あけて貼り付けてください。
❻ 化粧側板（小）をスライドさせて取付けてください。

4.灯具制御ユニットの取付け

ポイント

- 電源のプラス・マイナスは間違えないで結線してください。制御入力・警報出力のは極性はありません。

❶ 灯具制御ユニット蓋を止めてあるネジをゆるめて外してください。
❷ 立ち上げてある電源配線および切替スイッチ配線を灯具制御ユニットの底面の孔より引き出し、図のように端子台に接続してください。
❸ 受光器から出ている配線を図のように「センサ1」には受光器配線を、「制御入力」には切替スイッチ配線を接続してください。

ポイント

- センサ2を使用する場合、接続してあるリード線を取外してください。
- 受光器を2台取付けている場合は、端子台の受光器のセンサ1、センサ2へそれぞれ別々に接続してください。または受光器と投光器を取付けている場合は、投光器のセンサ1へ接続してください。

❹ 灯具制御ユニット蓋を灯具制御ユニット本体の底の溝に引っ掛け、蓋についているネジで締め付けてください。
❺ 灯具制御ユニットをセンサ取付けポールにはめ込み、1-④を使用して取付けてください。

ポイント

- パッキンはポールに被るように取付けてください。

5.赤外線センサユニットの調整と設定

❶ トランス電源ユニットの出力を「連続ON」に設定してください。

ポイント

- トランス電源ユニットは「連続ON」で使用してください。

❷ センサの調整方法については、赤外線センサユニットの施工説明書に従い調整してください。
❸ 赤外線センサユニットのブザー機能は使用しないので、赤外線センサユニットの施工説明書を参考にOFFにしてください。
❹ 受光器と投光器のカバーをはめ、カバーロックビスで締め付けてください。

ポイント

- 光軸調整は赤外線センサユニットの施工説明書にしたがい正しく行ってください。光軸調整が正しく行われていない場合、誤作動の原因になります。

6.切替スイッチの接続

❶ 通電金具に接続した配線を解除用押ボタンスイッチに接続してください。
❷ 取付枠を「M4×12サラ小ネジ」で1コ用スイッチボックス防滴プレート用に取付けてください。

ポイント

- より線の場合は付属の棒端子を使用してください。

❸ 防滴プレートを「M3.5×5特殊ネジ」で1コ用スイッチボックス防滴プレート用に取付けてください。
❹ 付属のシールを貼り付けてください。

7.灯具制御ユニットの設定

表7-1 各モード切替スイッチと作動状態

灯具制御ユニット状態	切替スイッチ状態	作動状態
警戒	警戒	警戒
通常	警戒	警戒
警戒	通常	警戒
通常	通常	通常

ポイント

- 出荷時の設定がお勧めの設定になりますが、使用状況に応じて設定を変更してください。
- 点灯時間・出力遅延時間の調整には、精密ドライバーなどの先の小さいものを使用してください。

❶ 灯具制御ユニット蓋を取外してください。

❷ ブザー、モード切替、点灯時間、出力遅延時間を設定してください。

ポイント

- ブザーはスイッチをスライドさせることにより大小を切り替えられます。また音を切ることもできます。出荷時は大に設定されています。
- 作動モードを切り替えて使用できます。灯具制御ユニットのモード切替と切替スイッチのモード切替による作動状態は表4-1のようになります。出荷時は警戒になっています。
- 点灯時間は20秒から3分まで調整できます。出荷時は20秒に設定されています。
- 警戒モードは感知後フラッシュを15秒間行い、その後設定時間まで常時点灯をします。フラッシュ時間の15秒は変えることができません。
- 通常モードでは設定時間まで点灯します。
- 出力遅延時間は検知後、作動を開始するまでの時間を0秒から30秒まで調整できます。出荷時は0秒に設定されています。
- 赤外線センサユニットが検知した場合、必ず設定時間後に作動します。

❸ 設定が終了したら、灯具制御ユニット蓋を取付けてください。

8.ワイヤレス送信機の取付けと設定 オプション

8-1 ワイヤレス送信機の設定

ポイント

- ワイヤレス送信機の施工説明書にしたがって作業をしてください。
- 信号を受信する室内器の設置方法は室内器付属の取扱説明書にしたがって行ってください。

❶ ワイヤレス送信機の蓋をあけて設定をしてください。

ポイント

- 下記のとおりに設定してください。
  - ・「入力切替」ー左側
  - ・「外部入力切替」ー左側
  - ・「セレクトスイッチ」および「各種設定スイッチ」はワイヤレスセンサ室内機に合わせて設定をしてください。

❷ 配線を引き出してください。

ポイント

- 配線が細いため、取扱いには注意してください。

❸ 設定が終わりましたら、ワイヤレス送信機の蓋を閉めてください。

8-2 ワイヤレス送信機の取付け

❶ 灯具制御ユニット蓋を取外してください。
❷ ワイヤレス送信機から引き出されている配線を、端子台の警報出力へ接続してください。
❸ ワイヤレス送信機を灯具制御ユニットにある「つめ」に引っ掛けて取付けてください。
❹ 設定が終了したら、灯具制御ユニット蓋を取付けてください。

ポイント

- 蓋を閉めるときに配線を挟み込まないように注意してください。